奉仕部の雪乃下雪乃と由比ヶ浜結衣に
催眠術をかけることに成功した。
早速俺に対して
フェラチオ
ご奉仕してもらう
ことにした。

雪乃下雪乃
「臭うわね…♥
こんなのを見せつけて
恥ずかしくないのかしら…♥」
ぴくっ
ぴくっ
由比ヶ浜結衣
「ゆきのん
流石に失礼だよ…♥
確かにちょっとキモい
けど……♥」
むわ…♥

「チンポの亀頭まわりに
恥垢がついてるし…♥
流石に少しは礼節をわきまえたら…♥」
ぷく
ぷく
スー
スー
むわ…♥
「うわ…くさ…♥
亀頭まわりの臭い
キツいね♥」

男「うわ二人の舌マンコとてもやわらかい……」
「ぢゅるっ♥ちゅ♥ちょっと気持ち悪い声をあげないでくれるかしら気が散るわ♥」
「言い過ぎだよゆきのん♥依頼なんだからちゃんとこなさなきゃ♥」
レロ♡
レロ♡

「さっさと射精しなさい♥私たちも暇ではないの♥」
「雪乃下さんそんな急に激しく…！」
ぢゅるぢゅる
レロ
ぢゅうう
レロ
「もう射精そうだ！このままふたりにぶっかけるよ…！」

「射精るっ！」
んぐぐッ
んッ♡

「げほっげほっ♥
むせ返るオスの臭い♥
なにこれ……♥」
「うわ……♥
すごくエッチな臭いが
する……♥♥」
「今日はたっぷり
溜めてきてるし
とことん抜いて
もらうからね…！」
はー♪
はー♪
どろ……

数時間後
雪乃下と由比ヶ浜は完全に発情しており、俺のチンポ臭を嗅ぎながら胸や乳首を制服の上から弄っている。
『二人ともすごい吸いっきっぷりなかなか熟れてきたね』

「ぢゅるっ♥ぢゅうう♥
まだ出し足りないのかしら…
いい加減口が疲れてきたんだけど…♥」
ちゅぽ
ちゅぽ
「あたしはもうちょっと
嗅いでたいかな…♥
金玉のところ
すごくエッチな臭いがする…♥♥♥」
ぢゅるる

「ぢゅるるるっ♥ぢゅうう♥
さっさと射精しなさい♥」
「うおっ!?ふたりの
ザーメン催促フェラ
えぐすぎる！」
「うっ♥ふぅ♥
くっさっ♥
チンポ臭オナニーで
まんこキマるッッ♥♥」
ぶぢゅ
ぶぢゅ
ぶぢゅ
ぶぢゅ

「射精せっ♥射精せっ♥」
「射精しちゃえっ♥」
二人の自慰がより激しくなる。
んぼ
ブチュ
ブチュ
んぼぶぶ
「もうイくぞっ!!便女顔で受け止めろっ!!」

どぴゅっ♥びゅくっ♥
びゅくんっ♥びゅるるッッ♥♥
ぢゅぢゅ♥
ぢゅぢゅ♥
ぢゅぢゅ♥

「派手にいっちゃったねぇ
金玉から出しきった
濃厚チンポ汁もしっかり
味わってね」

「んふっ♥ふぅ♥
とても濃いわね♥
「ぢゅう♥ちゅる♥
エッチな味♥♥」

ぶるっ
いい
んふ
んじゅ
ぢゅぅ
ぢゅぢゅ

「二人とも処女とは思えない便女フェラでびっくりしたよ」
ぐぷ
ぐぷ
ぐぷ
ぐぷ
はーー
はーー
はーー
はーー
「また溜まったら遊んであげるからね……！」